

1. 平面を決める「2つの矢印」

平面上のあらゆる位置（ベクトル）を表すには、基準となる「2つのベクトル」が必要となる。

定義：一次独立（いちじどくりつ）

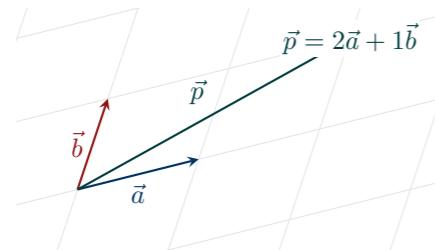
2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が以下の条件を満たすとき、 \vec{a} と \vec{b} は一次独立であるという。

$$\vec{a} \neq \vec{0}, \quad \vec{b} \neq \vec{0}, \quad \vec{a} \nparallel \vec{b}$$

つまり、「0でなく、平行でもない」2つのベクトルのことである。

斜交座標のイメージ：

一次独立な2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} を基底（きてい）と呼ぶ。これらを基準にすると、座標軸が斜めになつたマス目（グリッド）を作ることができる。



どんな場所にある点 P も、基底の足し合わせで表現できる。

2. ベクトルの分解定理

分解の一意性（最重要）

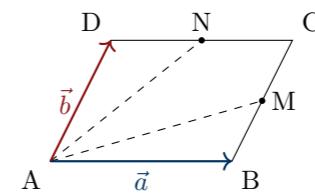
\vec{a}, \vec{b} が一次独立であるとき、平面上の任意のベクトル \vec{p} は、実数 s, t を用いて

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$$

の形にただ1通りに表される。

例題 1 (図形の分解)

平行四辺形 ABCD において、辺 BC の中点を M、辺 CD の中点を N とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}, \overrightarrow{AD} = \vec{b}$ とするとき、 $\overrightarrow{AM}, \overrightarrow{AN}$ を \vec{a}, \vec{b} で表せ。



3. 係数比較法

分解が「1通り」しかないと、係数を比較して方程式を作ることができる。

係数比較の定理

\vec{a}, \vec{b} が一次独立であるとき、

- (1) $s\vec{a} + t\vec{b} = \vec{0} \iff s = 0$ かつ $t = 0$
- (2) $s\vec{a} + t\vec{b} = s'\vec{a} + t'\vec{b} \iff s = s'$ かつ $t = t'$

記述上の注意:

この定理を使うときは、必ず「 $\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0}, \vec{a} \nparallel \vec{b}$ なので」（または単に「 \vec{a}, \vec{b} は一次独立なので」）という断り書きが必要である。

例題 2 (係数決定)

\vec{a}, \vec{b} は一次独立とする。

$$(3x + y)\vec{a} + (x - 2y - 7)\vec{b} = \vec{0}$$

を満たす実数 x, y の値を求めよ。

例題 3 (基底の変換)

\vec{a}, \vec{b} は一次独立とする。 $\vec{p} = 2\vec{a} + 3\vec{b}, \vec{q} = \vec{a} - 2\vec{b}$ であるとき、 \vec{a} を \vec{p}, \vec{q} を用いて表せ。

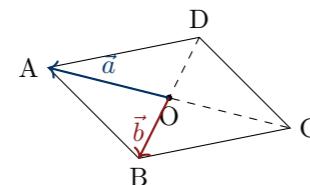
方針: 連立方程式のように \vec{b} を消去する。

確認テスト (A: 基本)

練習 A1 (図形の分解)

平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O とする. $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とするとき, 次のベクトルを \vec{a}, \vec{b} で表せ.

- (1) \overrightarrow{OC}
- (2) \overrightarrow{AB}
- (3) \overrightarrow{BC}



Memo / Answer

練習 A2 (係数比較)

\vec{a}, \vec{b} は一次独立とする.

$$(x - 2)\vec{a} + (2x + y - 5)\vec{b} = \vec{0}$$

を満たす実数 x, y を求めよ.

Memo / Answer

確認テスト (B: 標準)

練習 B1 (基底の変換)

\vec{a}, \vec{b} は一次独立とする.

$$\vec{u} = 2\vec{a} - \vec{b}, \quad \vec{v} = -\vec{a} + 3\vec{b}$$

であるとき, $\vec{p} = 3\vec{a} + \vec{b}$ を \vec{u}, \vec{v} を用いて表せ.

Memo / Answer

解答 (A: 基本)

練習 A1 (図形の分解)

(1) O は AC の中点. \overrightarrow{OC} は \overrightarrow{OA} の逆ベクトル.

$$\overrightarrow{OC} = -\overrightarrow{OA} = -\vec{a}$$

(2) 終点 - 始点.

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \vec{b} - \vec{a}$$

$$(3) \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OB} = (-\vec{a}) - \vec{b} = -\vec{a} - \vec{b}$$

Memo / Answer

A2 解答:

\vec{a}, \vec{b} は一次独立なので、係数はそれぞれ 0 である.

$$\begin{cases} x - 2 = 0 \\ 2x + y - 5 = 0 \end{cases}$$

第 1 式より $x = 2$. 第 2 式に代入して $4 + y - 5 = 0 \iff y = 1$.

答え: $x = 2, y = 1$

解答 (B: 標準)

Memo / Answer

B1 解答:

$\vec{p} = s\vec{u} + t\vec{v}$ とおき、 s, t を決定する（係数比較法）.

代入して整理すると:

$$\begin{aligned} \vec{p} &= s(2\vec{a} - \vec{b}) + t(-\vec{a} + 3\vec{b}) \\ &= (2s - t)\vec{a} + (-s + 3t)\vec{b} \end{aligned}$$

一方で、問題の条件より $\vec{p} = 3\vec{a} + \vec{b}$ である. \vec{a}, \vec{b} は一次独立であるから、係数を比較して:

$$\begin{cases} 2s - t = 3 & \cdots (1) \\ -s + 3t = 1 & \cdots (2) \end{cases}$$

(2) より $s = 3t - 1$. これを (1) に代入. $2(3t - 1) - t = 3 \implies 6t - 2 - t = 3 \implies 5t = 5 \implies t = 1$. よって $s = 3(1) - 1 = 2$.

したがって,

$$\vec{p} = 2\vec{u} + \vec{v}$$

別解（連立方程式として解く）：

$$\vec{u} = 2\vec{a} - \vec{b} \dots (i)$$

$$\vec{v} = -\vec{a} + 3\vec{b} \dots (ii)$$

$$(i) + 2 \times (ii) \text{ より } \vec{u} + 2\vec{v} = 5\vec{b} \implies \vec{b} = \frac{1}{5}(\vec{u} + 2\vec{v}).$$

同様に \vec{a} を \vec{u}, \vec{v} で表して \vec{p} に代入してもよい.